

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	越谷警察署庁舎	階数	地上4F
建設地	越谷市東越谷	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、第二種住居地域	平均居住人員	410 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2025年10月26日
敷地面積	8,094 m ²	作成者	三田知男
建築面積	2,662 m ²	確認日	2025年10月26日
延床面積	9,030 m ²	確認者	齊藤一彦



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 138 (kg-CO₂/年・m²)
 ② 建築物の取組み: 46 (kg-CO₂/年・m²)
 ③ 上記+②以外の: 89 (kg-CO₂/年・m²)
 ④ 上記+: 89 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>【設計における総合的なコンセプト】</p> <p>既存の老朽化、狭隘化と、運転免許更新者の増加、犯罪被害者相談室の適切な設置、地震対策等を考慮して建替えを行う。施設整備方針として、市民が身近に感じられる施設で、職員の効率的な執務空間を実現、まちにひらかれまちを見守る地域全体の治安向上に寄与する施設づくりを目指す。</p>	<p>【その他の配慮事項】</p> <p>北館との接続による、連続した回遊性、利便性を確保するとともに、隣棟間隔を確保し、既存建物の日照・通風に配慮する。</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>【室内環境に対する配慮事項】</p> <p>警察署施設の様々な各室の性能に配慮した、吸音、遮音、空調制御等を行い、快適な室内環境を回る計画とする。また、熱負荷の大きい東西面の開口部を最小限とし熱負荷を抑える計画とし、さらに屋上緑化による、屋根面の日射遮蔽、断熱に配慮した計画とする。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>【サービス性能に対する配慮事項】</p> <p>まず建築基準法に定められた50%造の耐震性能を有することで、利用者に安心感を与える計画とする。階高さにゆとりをもたせ、事務機能の諸室についてはOAフロアなどの配慮を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>【エネルギーに対する配慮事項】</p> <p>自然採光や自然通風などの自然エネルギー利用を積極的に行うものとする。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>【資源・マテリアルに対する配慮事項】</p> <p>節水型機器の採用、雨水の便所洗浄水利用、高強度コンクリートの採用、国内森林産出木材の内装材への利用、等、地球資源に配慮した計画を行う。</p>
	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>【室外環境(敷地内)に対する配慮事項】</p> <p>敷地外周部は接道緑化に努め、近隣への緩衝帯とする。屋上の一部を緑化し、生物環境の保全と創出に配慮する。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>【敷地外環境に対する配慮事項】</p> <p>敷地の中央に建物を配置することで、近隣へ日照や圧迫感等の影響を軽減、建物周囲の接道緑化に努める計画を行う。排熱部をGLから離すことで人へ排熱が当たることを避ける計画とする。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
越谷警察署庁舎

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		竣工段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.2
Q1 室内環境							0.39	-	-	3.2
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						3.1	0.25	-	-	3.1
3.1 昼光利用						3.0	0.30	-	-	
1 昼光率						3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		事務室を500~1000lxで設計				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.8	0.25	-	-	3.8
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		仕上げ材料はすべて4☆☆☆☆としている。				4.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.3	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		外気取入れ口は2階、4階の北面です。各階汚染源なく、排気口6m以				4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		自動制御設備で各室からの還気のCO ₂ 濃度を監視し、取入れ外気量				5.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.4
1 機能性						3.1	0.40	-	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ						3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		OAコンセント40VA/㎡以上の計画、複数の通信用管路の確保、ケーブルラックで各階へのルートを確認				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						4.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33	-	-	
3 内装計画						3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.8	0.30	-	-	3.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						4.6	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		基準法の必要保有水平耐力に対し、1.5倍以上の保有耐力を有する。				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.4	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水コマを半数以上の器具で採用、中水利用あり、受水槽の災害用				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2か所の引き込みルート及び複数管路を確保、通信機械室を4階に設置				4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高さは4.4以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック、保護管により通信配線の更新性を確保	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.31	-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			屋根面、外壁面にしっかりと断熱を行うことでBPI0.80を確保。	5.0	0.20	-	5.0
2 自然エネルギー利用			[BEI][BEIm] = 0.85	3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.85	2.7	0.50	-	2.7
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	1.00	-	-	-
集合住宅の評価				-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用(中水利用)システムを導入しています。	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	1.00	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			換算スコア3.4	3.4	0.33	-	3.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	来庁者車両の出入口を2か所、さらに、管理側出入口用にもう1ヶ所車	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	越谷警察署庁舎	BEE	1.2	BEEランク	★★★
------	---------	-----	-----	--------	-----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.4	+	3.0	=	6.4 
重点項目の各スコアの合計点				
がらんぼう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.4
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
<配慮した内容を記述> 十分なオープンスペースを主要道路に対して設けた。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	3.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
<配慮した内容を記述> 十分な緑地を整備。			

 :入力欄